

国際探究Ⅰ「教養講座Ⅲ」

(日時) 3/3(木) 13:20-15:20

(場所) 本校柔道場

(対象) 1年生全員275名

(講師) ハバタク株式会社 丑田 俊輔 氏

(演題) 「世界を旅していたら、秋田にたどり着いた話
～ドチャベン?年貢?秋田から世界を揺らす想像力～」

(目的) 「国際探究Ⅰ」の締めくくりとして、秋田にいなながらも広い視野とグローバルな発想で事業展開している実践者の話を聴講し、グローバルリーダーの卵としての夢や発想を広げる。

(内容) スーパーグローバルハイスクール事業を展開してきた秋田南高校の1年生に、改めてグローバルシンキングの重要性や、グローバルリーダーを目指す意欲や夢を語っていただく。

(生徒の活動評価) 活動観察、メモ・振り返りシート

(参観) なし

(報道) 河北新報

(質疑応答)

Q 出る杭は打たれ強いと自分は考えるのがいかがでしょうか?

A 正しいことをやると反発は必ずあるが、協力してくれる人も必ずいる。協力してくれる仲間と成果を出して、否定的な人も巻き込んでいければよい。

Q 格差の是正についてどう考えておられますか?

A 自分の事業を広げていくことが小さな意味では対応していることになると思う。

Q 挑戦には不安がつきものだが、どうやってそれを乗り越えているのですか?

A 自分も若い頃不安だった、それをさらけ出して提案相談すると、必ず相手をしたり助けたりしてくれる人がいる。そういう人をどんどん増やしていけばよいと思う。

○ 五城目町から世界を展望する若い経営者の話は、生徒たちへの説得力にあふれていたように思う。ご縁・臨場知・ビジョンを大切に生きてほしい、出すすぎた杭は打たれない、等のメッセージに、生徒たちは大いに納得したようだ。今後の経済の展望や、世界を見てきた経験、土着ベンチャー事業、年貢を納めてシェアビレッジという田舎の共有的別荘地の使用权を得るという発想や実践等、生徒たちは親近感を覚えながら聴講していた。「グローバルな展望をしながら、足元から何かできないかと考える」感覚は、本校のSGH構想がねらう生徒に身につけてほしい姿勢そのものである。選択者74名以外の多くの生徒にとっては、この講座が事業的には最後となる。最後にふさわしい、生徒の今後の夢を広げる、前向きな講座となった。

(生徒の振り返りから)

- ・ この前テレビで見た、東京から五城目町に来て活躍している人だった。大変興味を持って聴いた。
- ・ 将来働く上で大切になっていく言葉をたくさんいただいた。
- ・ ただ考えているだけではなくて、実際に行動してチャレンジしてみることが大切なんだと思った。
- ・ 今まで面倒だと思っていた一つ一つの物事にきちんと向き合っていかなければならないと思った。
- ・ 自分も、秋田のために、世界のために、自分にできることをやってみたいと考えた。
- ・ 何かを成しとげるには、人と関わりつながり、相手に敬意を払って協力することが大切と知った。
- ・ 「貧困とはお金の欠如ではなく想像(創造)力の欠如のことだ」という言葉が印象的だった。
- ・ 自分自身を高めるために、自分も丑田さんのように、たくさん海外経験を積みたいと思った。
- ・ 非常に刺激的な講話で、自分たちがやってきたSGH活動の有意義さ改めて感じる事ができた。
- ・ 話すのがすごく上手で、経験に基づき、前向きでやる気の出る話なので、皆引きつけられていた。
- ・ 地方も都会に負けていないなと思った。これからの問題解決のヒントはむしろ地方にこそある。

